

# 巻 頭 言

熊本市国際交流振興事業団の2016年度の年報を発行するにあたり、当該年度の事業活動をここに総括します。

2016年度は、年度開始早々に、最大震度7の2回（4月14日午後9時26分、16日午前1時25分）の大きな揺れと数え切れない余震が続く熊本地震が発生し、死傷者2,938人、住宅損壊192,904棟という未曾有の被害をもたらしました。（2017年6月末、熊本日日新聞より）事業団は、熊本市の要請を受け、国際交流会館に外国人避難対応施設を開設し、4月30日まで継続的に運営し、外国人356人を含む784人の避難者を受け入れました。



理事長 吉 丸 良 治

また、九州地区地域国際化協会連絡協議会と多文化共生マネージャー全国協議会よりスタッフ派遣協力をいただき、4月20日に災害多言語支援センターを立ち上げ、外国人被災者の安否確認のための避難所巡回と災害支援情報の英語、中国語、韓国語への多言語化を行いました。（災害支援情報は、大阪大学の協力でタガログ語やインドネシア語等12カ国言語に翻訳、熊本県立大学の協力でやさしい日本語へリライトされました。） これら協力団体に加え、日本人・外国人市民も一緒になって行った外国人被災者支援活動が高く評価され、国際交流基金の「地球市民賞」をいただきました。ご支援、ご協力いただきました皆様に、心より感謝すると同時に、普段の外国人コミュニティと地域のつながりを構築しておくことが大切であることを再認識しました。

国際交流会館の施設は、ホールの可動式座席、シャンデリア等が破損しましたが、早急な対応で、会議室は5月6日から、ホールは平面レイアウトで7月8日から、利用を再開することができました。（ホールの可動式座席の修理も終了し、今年4月からは劇場レイアウトでの使用も可能になりました。）

国際交流事業も、熊本地震で、会期延期、規模縮小等の影響を受けましたが、当初予定した全事業を実施することができました。特に、2016年は、夏目漱石記念年にあたり、漱石を国際という視点から学ぶ「英国ロンドンの漱石探訪ツアー」、「在住外国人の方々を対象とした草枕探訪ツアー」、「多様な言語に翻訳された漱石作品展」、「海外から見た漱石セミナー」を、ロンドン漱石記念館長でもある事業団の恒松郁生理事の指導の下、開催することができました。事業の詳細を本年報に記載しましたので、是非、ご一読いただければ幸いです。

一年をとおして、つながりを大切に事業展開し、震災からの復旧・復興を推し進めてまいりましたが、熊本城の改築工事や町中の住宅の解体作業の様子をみると復興は始まったばかりです。今、事業団は、さらなる復興に向かって、2019年のラグビーワールドカップ、世界女子ハンドボール選手権や桜町再開発事業での「（仮）熊本城ホール」等のグランドオープンを見据えた国際交流の発展やまちづくりの拠点としての役割を担っていく所存です。また、外国人・日本人住民が共に集い、支え合える多文化共生社会の拠点となるような日本語教室を、東区での開設を皮切りに進めてまいります。つきましては、皆様より倍旧のお知恵とご指導をいただきますよう、何卒、よろしくお願い申し上げます。

2017年7月1日  
一般財団法人熊本市国際振興事業団  
理事長 吉丸 良治